

令和4年度 経営発達支援計画の自己評価（外部有識者の事業評価と見直し）

（令和5年6月7日実施）

評価点数 4.7点（5点評価）

I 経営発達支援事業の内容

1. 経済動向調査

指摘事項	見直しを行った結果
<p>景況調査は、市内経済の動向を把握する上で重要であり、施策の企画立案に非常に役立っている。巡回ヒヤリングによる丁寧な聞き取りがされ、有効な特別調査もいただいています。今後、益々活用しやすいデータとなることを期待します。</p>	<p>大切な調査データを、より多くの会員事業所に活用していただくために、WEB サイトなどで掲示する計画を立てています。ただし、単にデータを掲載するだけでなく、報告書にはない職員のコメントや特徴的な景況に基づいた情報、関連する制度へのリンクを提供することで、より具体的な「景況感を知る」メリットを提供したいと考えています。</p>
<p>丁寧に作成されているが、それをどう会員にアピールするか提案力が求められる。 作成過程(100社から回答は記載されているが)において、中信・県民局・連合会調査を加味したとしても時間と労力がかかっていることを一行程度で記載するのも方法としてはありではないか？</p>	

2. 需要動向調査

指摘事項	見直しを行った結果
<p>コロナ以降、調査自体が困難であった中、新たな取組となる現在準備中の商談会における調査を期待します。</p>	<p>9月7日と8日に開催される国際フロンティア産業メッセ（商談会）への出展では、「単に出展すること」が目的ではありません。我々の目標は、「出展事業者の商品の成約」を実現することです。そのために、準備を進めて参ります。</p> <p>さらに、事業者を募集して行う需要動向調査に関しても、ただ情報を集めるだけではなく、事業者の現状をヒアリングし、具体的な課題を把握した上で、課題解決の取組みに繋がるようサポートしたいと考えています。私たちの目標は、調査結果を活かして事業者のサポートを行い、成果を上げることです。</p>
<p>事業者の具体的課題に即した調査となっていることから評価できる。</p>	

3. 経営状況の分析

4. 事業計画策定支援

指摘事項	見直しを行った結果
------	-----------

積極的な伴走型支援に取り組まれており、携わる職員さんの負担も大きいと推察します。生成AIを一次的に利用するなど、負担軽減、効率化に資するデジタル技術の活用必要性を感じました。	支援のシステム化（しくみづくり）をはかり、また、生成AI等も活用しながら、効率的な支援に取り組みたいです。
本年も引き続き事業者への精力的な巡回訪問やBizステ連携による効果が見受けられ、各種の補助事業の高い採択率に繋がっている。	引き続き、定期的な巡回によるヒアリングを重ねながら、Bizステーションを上手く活用し、支援にあたります。
実利のある事業計画策定に向けた充実した支援をしている。伴走支援を基本とし、専門家も交えながら事業計画をブラッシュアップ、補助金採択後の施策展開フォロー（顧客獲得等事業推進）等効果的に実施できている	特に、事業実施後のフォローアップでは、定性的な確認だけでなく、経営計画に記載した数値も含めて定量的な部分についても確認を行い、伴走支援を実施したいと考えています。このように、疎かになりがちな部分にも目を向けつつ、事業の成果を数値として追いながら、企業や団体の成長に寄り添った支援を行っていきます。
事業計画策定では、多くの支援がなされていますが、事業承継などの難しい面も含め、さらに目標に近づくことを目指し、支援に取り組んでください。	事業承継支援においては、将来の当事者となり得る青年部とも連携しながら、効果的な支援を行っていきます。青年部との協力を通じて、円滑な事業承継をサポートしていく予定です。
補助金申請事業は税金が投入されていることや商工会無償支援であることを考慮すれば、申請企業にある程度協力いただくのもありではないか？	補助金申請においては、事業者自身で計画書を作成して頂くことを前提に、審査ポイントを押さえた実現性の高い計画書となるようサポートしていきます。

5. 事業計画策定後の実施支援

指摘事項	見直しを行った結果
補助金事業を通じ経営計画を策定した事業所の追跡調査や会員への情報公開の方法を考えてほしい。 伴走型個別支援がノウハウを蓄積し、公開(当然損益情報や個別会社などは非公開)することがさらなる支援につながり、結果として商工会や会員企業の発展につながるのではないかと。	県連システムも新しくなり、経営発達支援事業者の支援状況報告についても、より詳細を求められるようになっており、事業計画期間の状況調査を行ってまいります。 また、FAX レターや商工会報、商工会WEBサイトでの情報公開も検討していきます。

6. 新たな需要の開拓に寄与する事業

指摘事項	見直しを行った結果
・キッチンカー、みつけ・たんば等、地域ニーズに即した需要喚起と事業所支援をミックスさせた好事例 ・商工会・行政（丹波市）連携での都市イベント ・にじいろタブレットは1.6万PVから5.5万PV	ご指摘いただいた事業は、まだ実施初年度であり、次の段階に向けての課題も多く見つかっています。これらの事業について詳細な分析を行い、会員事業所にとってより有効な取り組みを検討していきます。

<p>へ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスマッチング等、多様な支援が実施できていることは評価できる。 <p>④起業支援のありかた</p> <p>まちづくり柏原、移住テラスと連携等支援の多様化に取り組んでいることも評価できる。</p> <p>まずはノウハウの蓄積が必要。</p>	
---	--

II 経営発達支援事業の円滑な実施に向けた支援力向上のための取組み

指摘事項	見直しを行った結果
<p>全てにおいて、概ね計画を達成されている。</p> <p>会員数増加で繁忙を極めることが想定されますが支援に関する流れそのものは完成形に近づきつつあるので活動内容の周知・広報に課題は移行していくものと考えられます。</p> <p>この活動が、市や県を動かし、活動資金を確保し、さらなる新規事業が創出され、事業が拡張し、雇用が維持、商工会・丹波市がますます発展することを期待しています。</p>	<p>全体を通じたコメントでもご指摘のとおり、現状を上回るより多くの会員事業所へ情報の周知及び、制度等を活用して頂くことが重要だと考えております。</p> <p>そのために、巡回の方法や情報の発信手段などについて、常に改善を心掛けて検討していきたいと思っております。現状に満足せず、より良いサービス提供を目指し、より多くの会員事業所への支援を進めてまいります。</p>

全体を通じたコメント

総合的に、現状調査～課題抽出～対策立案～実行支援までの一連の流れが確立され支援内容も年々充実している。特に対策立案～実行支援段階においては、多様なプロモーション支援、販路開拓、マッチング促進等充実したものとなっている。

今後の課題として、上記一連の一貫した営みを

- ①現状を上回るより多くの商工会員に効果的・効率的かつ体系的に認知していただく取組
- ②より多くのヤル気ある会員が商工会を活用し、丹波市経済の活性化につながるような営みが必要と感ずる。

令和4年度は第2期計画の初年度でしたが、多くの項目で目標を達成しており、達成件数などの数値以上に充実した内容の支援をされていることから、事業者に寄り添った取組が行われていると感じます。

第2期計画で新たに取り組むこととした、需要動向調査の項目やDX推進セミナー開催なども着実に実施しており、商談会の活用として令和5年度に予定している国際フロンティアメッセの出展準備も進められていることから、さらに充実した支援となることを期待しています。